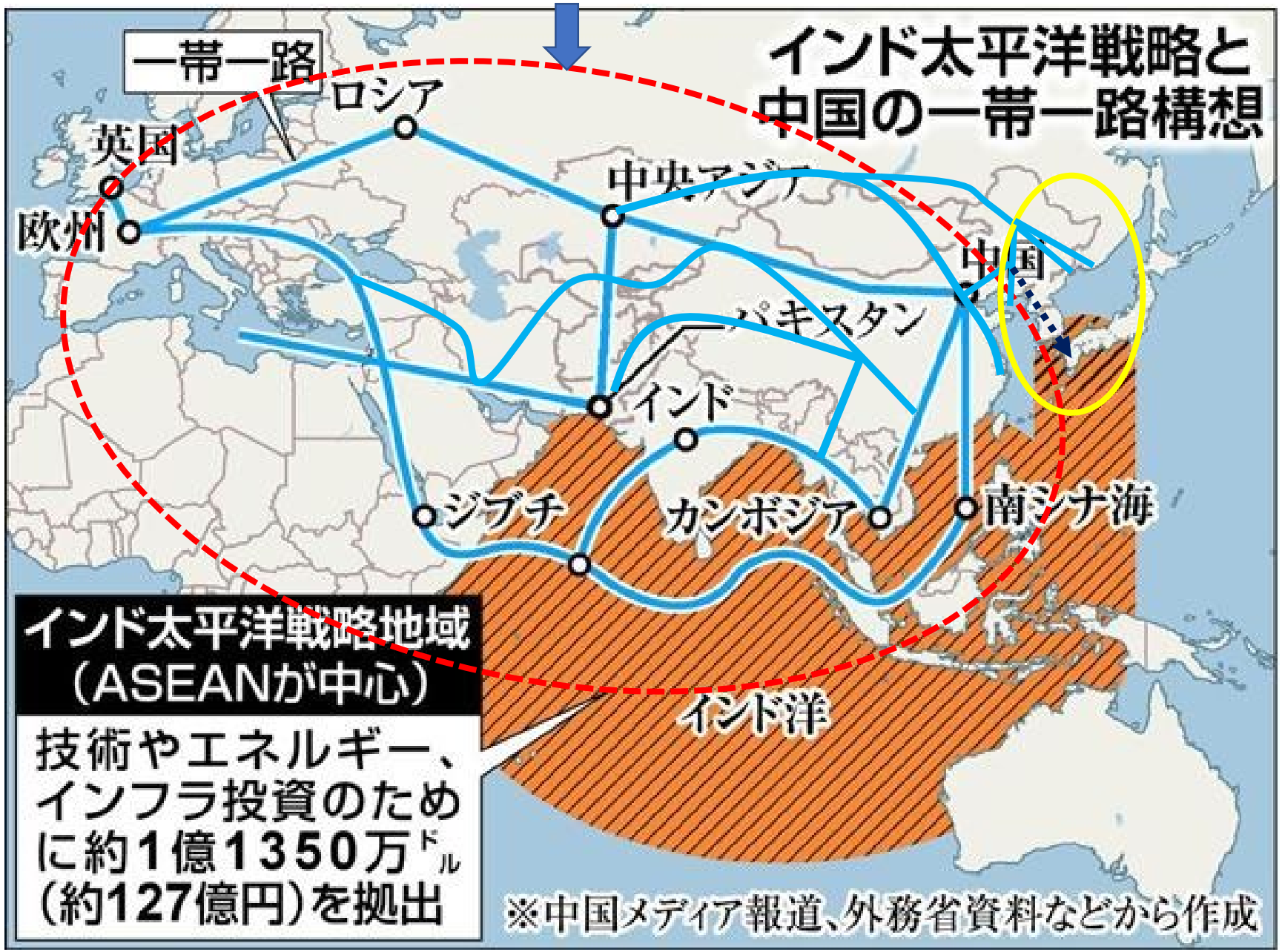
朝鮮半島から見た中国の「一帯一路」政策

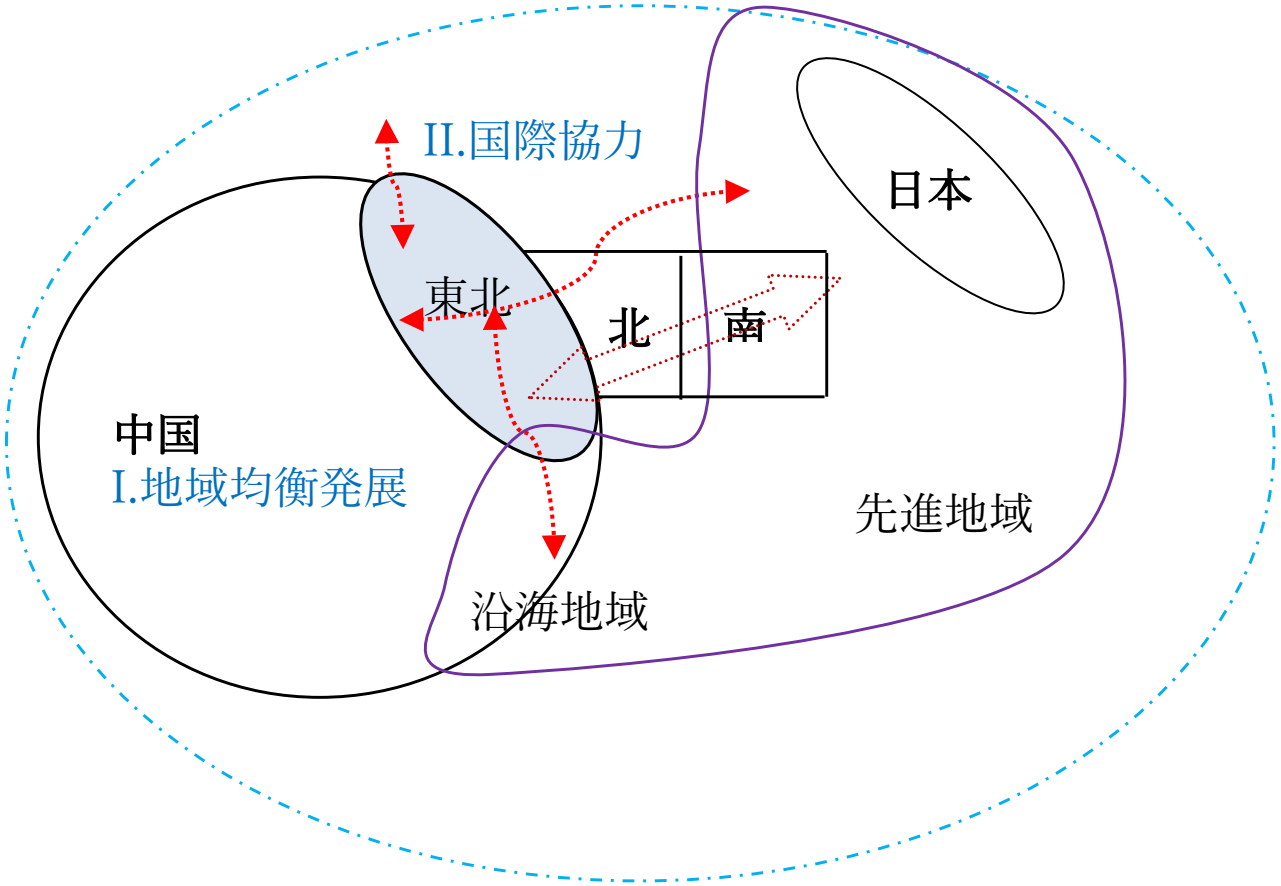
2019.11.8

李　燦雨

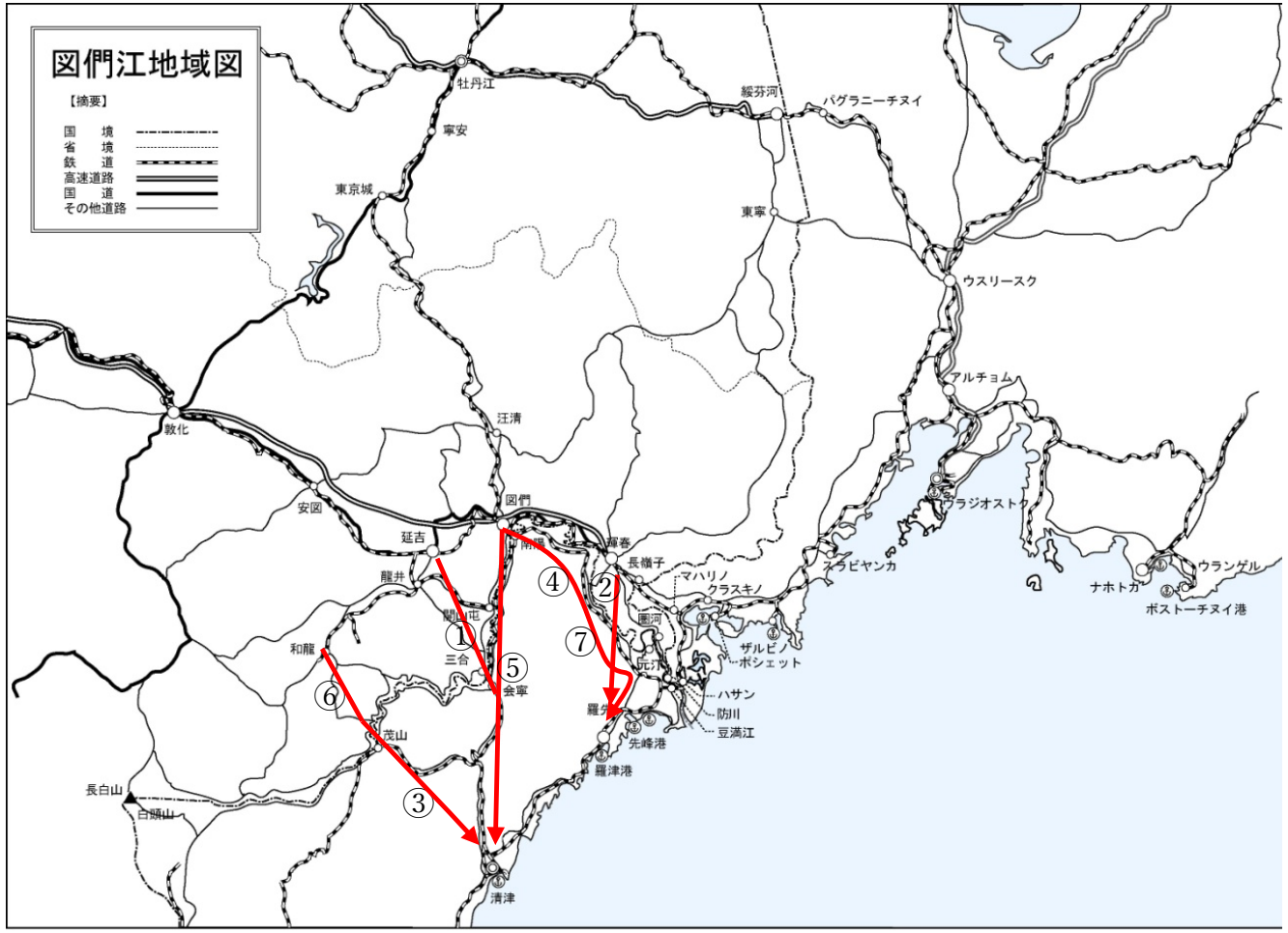
エネルギー・物流（鉄道）網の統合



中国の「一帯一路」構想と朝鮮半島



中国と朝鮮半島の接続＜延辺－羅先ルート＞



図表　「長吉図先導区」関連の対朝鮮半島通路のプロジェクト

種類	プロジェクト
高速道路	①　八道～三合税関～清津（47km）
	②　琿春～圏河税関～羅津（39km）
	③　和龍～南平税関～清津（50km）
鉄道	④　図們～南陽～図們江～ハッサン（126km、補修）
	⑤　図們～清津港（171.1km 補修）
	⑥　和龍～南平税関～茂山（53.5km）
	⑦　図們～南陽～羅津（158.8km 補修）

（資料）「延辺日報」2009 年 12 月 21 日

中国の「一帯一路」戦略と朝鮮半島

１）中国の構想

- 遼寧省の発展計画と朝鮮半島
- 高速鉄道：瀋陽－丹東－新義州－平壌－ソウル－釜山
- 吉林省の発展計画と朝鮮半島
- 道路・港湾整備：長春－会寧－清津

２）韓国の構想

- 遼寧省の構想には賛成
- 吉林省の構想は北朝鮮の構想でもあるが、韓国はまだ認識がない。

韓国政府の対応体制　①新北方政策

対ロシア９－Bridge戦略
①**水産**：漁港・物流・加工施設の建設
②**農業**：沿海地方に農業基地、穀物サイロ設置
③**電力**：韓－中－モン－日―ロ広域電力網の「スパーグリッド」構築
④**鉄道**：TSRとTKRとの連結、OSJD加盟
⑤**北極航路**：商業利用の活性化
⑥**ガス**：LNG利用、南北ロガスパイプライン連結
⑦**造船**：砕氷LNG船建造、造船所建設
⑧**港湾**：極東地域港湾建設
⑨**産業団地**：沿海地方韓ロ共同産業団地建設

韓国政府の対応体制　①新北方政策

①東部圏域：**ロシア極東、中国東北3省**
- ９－Bridge戦略
- 「一帯一路」戦略に連携

②中部圏域：**中央アジア、モンゴル**
- 資源開発、インフラ協力
- 製造業、農業およびIT分野の協力

③西部圏域：**ロシア西部、ウクライナ、ベラルーシ**など
- 先端産業協力

- ロシアにシフト、専門委員会内に中国専門家を排除
- 中国に対しては東北3省地域との協力や経由地として認識する限界

韓国政府の対応体制　①新北方政策

- 中国の「一帯一路」構想、ロシアの「新東方政策」、日本の日本海沿岸地域発展戦略などと連携させ、朝鮮半島を囲む北東アジア経済協力圏の形成を構想
- 新北方経済協力推進戦略における20シナリオ（案）の分類

交通・物流	エネルギー・鉱物	産業・技術・人材	観光	複合	通商	金融	外交
3	2	5	1	4	2	1	2

韓国側イニシアチブの評価と問題点

①朝鮮半島で非核化をめぐる政治・軍事的対立の解消との整合性

②韓国政府による構想推進の意志

　韓国政府は「朝鮮半島の新経済地図」構想を中国の「一帯一路」構想だけでなく、ロシアの新東方政策、日米の日本海沿岸地域発展戦略などと連携させ、朝鮮半島を囲む北東アジア経済協力圏を形成することを構想。

③韓国の経済界が北朝鮮との貿易・投資を再開できるための環境整備

④新経済地図構想と韓国経済の成長戦略の整合性

韓国政府の対応体制　②朝鮮半島新経済地図

（1）**産業及び経済特区分野**：委託加工、直接投資、経済特区投資
（2）**物流及び交通分野**：朝鮮半島―北東アジア統合物流網連携
（3）**観光及び環境分野**：金剛山観光再開、日本海沿岸の国際観光、
ソウル―白頭山の直航路、DMZ―UNESCO
生物多様性保全区域指定推進
（4）**エネルギー及び資源分野**：朝鮮半島統合電力・石油・ガス網
（5）**通信及び情報通信技術分野**：南北住民のインターネット接触整備
（6）**農林水産分野**：北朝鮮農水畜産業支援 - 灌漑、農地改良、水産施設
（7）**民生及び市場分野**：市場を活用した協力

北東アジア南北経済協力

物流

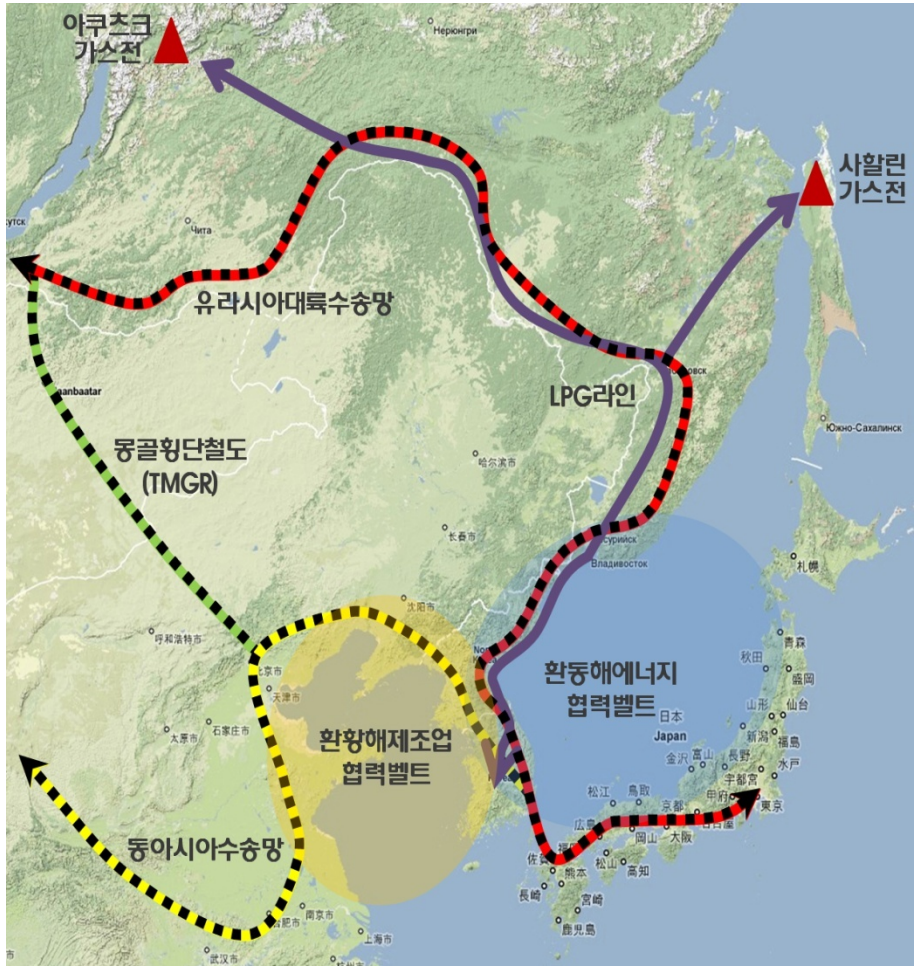
- 大陸鉄道/高速道路

Energy

- 天然Gas網の連結

産業

- 環黄海: 製造業
- 環東海: 観光、Energy



韓国国策研究所「統一研究院」の資料

2. 韓半島新経済構想の主要内容

①韓半島新経済構想 1:
3大 経済協力ベルト構築

②韓半島新経済構想 2:
1つの市場を形成

中国の「一帯一路」構想　－－－
韓国の「環黄海ベルト」構想

- ソウルから北朝鮮の開城、平壌、新義州を結び、中国につなげる「産業・物流・交通のベルト」である。

- 検討されている項目としては、
  ①西海岸経済協力：平壌・南浦付近に新工業団地の建設
  ②南北首都圏の経済協力：開城工業団地の再開
  ③中国の「一帯一路」政策との連携などである。

韓国経済の現状と南北経済協力への期待

- 韓国経済は2012年以降２―３％水準の経済成長率が続く低成長時代に入っている。
- 少子高齢化の人口構造からは韓国経済の展望が長期的にも明るくない。（2018年の合計特殊出生率は0.99と世界で初めて1.0を切った）
- 輸出主導型成長モデルは、保護主義の台頭や中国の競争力増大で展望が良くない。

韓国経済の特徴

対外経済　：　輸出主導成長の持続（小さい国内市場）

①　外需型の韓国経済、内需型の日本経済

＊５０％に近い輸出依存度（輸出額/名目GDP）

（日本　１４．０％　中国　２６．０％　水準）

②　海外で成功する理由がボトルネックとなる

＊4大輸出産業：通信機器、電子、石油化学、自動車

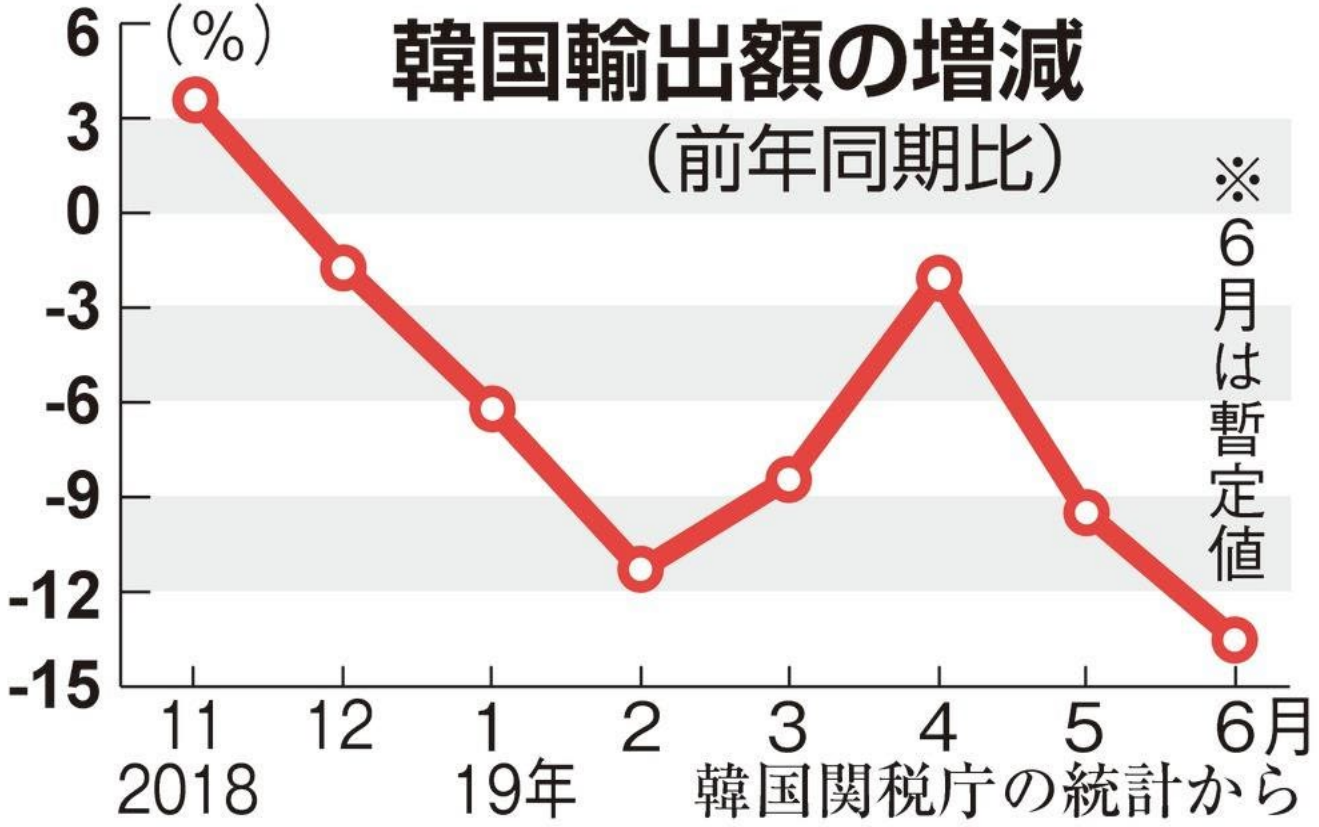
＊マーケティング力（先進国市場と新興国市場の異なる市場環境に適応した製品開発）

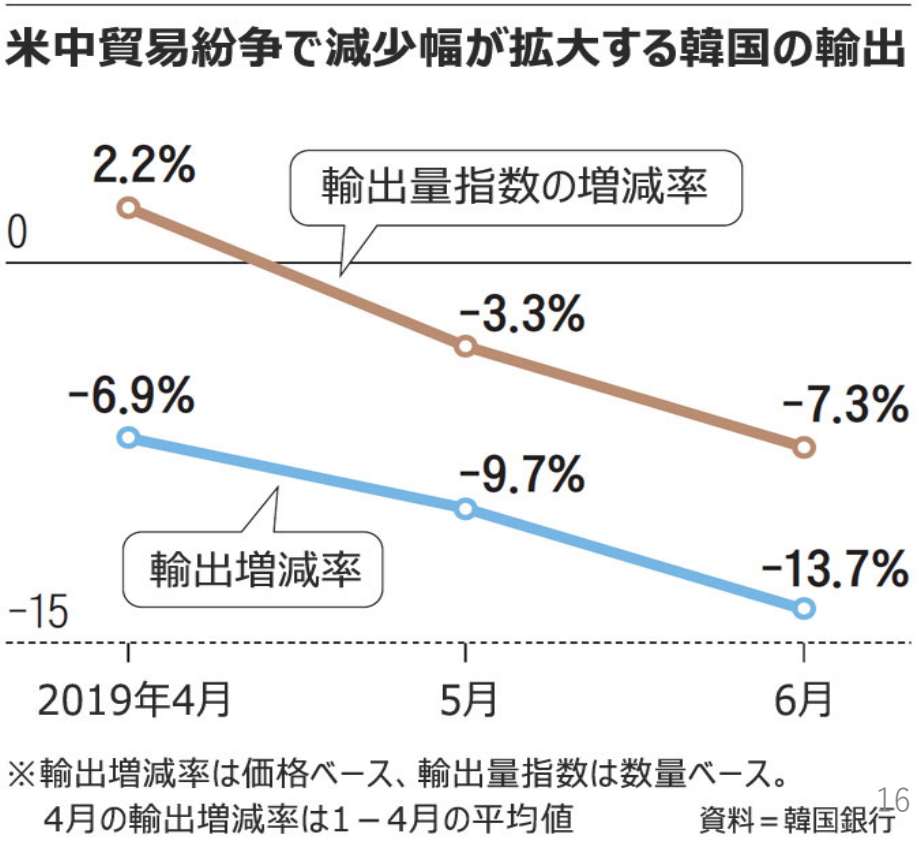
＊革新的生産システム　：　財閥が持つ垂直型分業体制と海外との水平型分業体制の結合（迅速なModel Change）

→　しかし、世界経済の内需化と景気不振、中国のCatch Up

韓国の経済情勢：不景気と不安

- 経済不安がしみじみする：輸出は9カ月連続の減少（8月は前年同期比13.6%減の442億ドル）中国への輸出21.3%減、米国6.7%減。日本6.2%減





韓国経済の現状と南北経済協力への期待

- 韓国企業の海外直接投資は李明博政権時代以降の10年間、南北経済協力が停滞した時期に急速に増加
- 2006年の100億ドルが17年に437億ドルに増加
- 主な理由：賃金上昇など国内企業環境の悪化と海外市場の開拓
- 現在の世界経済では保護貿易の強化、中国の高付加価値中間財輸出の拡大、東南アジアの賃金上昇などにより、海外投資のメリットが減少する傾向

  ⇒先進国企業の本国回帰（reshoring）や本国周辺地域への近接回帰（nearshoring）現象が起きている。

南北関係：「五里霧中」

- 北朝鮮：韓国に対する不信感、南北交流中断
- 韓国：南北関係の改善を国際政治の中心に置く政策が効力なし
- 文大統領の国連総会演説（9月24日）：「非武装地帯（ＤＭＺ）を国際平和地帯に変える」、北朝鮮と共同でユネスコ世界遺産への登録を目指す。「戦争不容認、相互安全保障、共同繁栄」の3大平和原則を提示
- 韓国は11月25－26日に釜山での「韓国―ASEAN特別首脳会議」に金正恩委員長の訪問可能性を北朝鮮に打診――可能性は低い。
- 北朝鮮は南北関係を後回ししている。
- 金正恩委員長は南側が建設した金剛山観光施設に対し撤去を指示
  （10月23日、労働新聞報道）（南と書面協議）

終わりに

- 韓国は北朝鮮の協力無しでは中国の「一帯一路」政策に陸路では繋がらない。中国は「一帯一路」を韓国の釜山港まで接続するために北朝鮮の協力が必要である。この意味で北朝鮮は地政学的あるいは地経学的意味で有利なポジションに位置する。
- 北朝鮮は中国への一方的従属を拒む努力をしてきた。北朝鮮国内での中国の経済回廊建設の展開は対北朝鮮経済制裁以前からも北朝鮮との意見不一致で進めなかった。北朝鮮は中国と連携しながらも独自性を重視しながら開発する立場である。北朝鮮は中国に対し「警戒心」を持ちながら協力して利益を得る姿勢を取っているように見える。
- 韓国はまずは南北間で経済協力を復活しそれを軸に北東アジア地域での広域的経済協力網を広げる戦略を持っている。
- 南北関係の改善が厳しい場合は北朝鮮抜きの北東アジア経済協力――中国、ロシア、日本などとの両者間の経済協力、日中韓の経済協力（自由貿易協定の推進）、北方圏（ロシア、中国、モンゴル、中央アジア）経済協力など――を進展させる構えである。